

し其後日を追ふて其の数を増せり「キジバト」は唯一回其姿を見しのみにて得ず「カラス」は何種なるや不明なれども確に其鳴聲を聞きたり其他 *Catia* に類する小禽及び「ミヤマシヨウビン」の一種を認め林中に追跡せしも遂に獲ず其種を確かむる能はず予か採集せる鳥類は他地方に於けるが如く銃器又は其他の器具を使用して獲たるにあらざらず皆之を手擒したるなり殊に「チウシヤクシギ」(*Numenius paepus*, Scop.) 及び「ヨシトキ」(*Ardeia eurhymna*, Swinh.) は島内巡回の際叢中に之を拾ひたり當時鳥は全く飛翔並に歩走力だも有せざりき是れ渡鳥後間もなき鳥にして海上遙かに飛來りて疲勞の極かくは容易に擒はれたる者ならん又拾ひし鳥に臺灣到處に普通の *Buchanga atra*, *Hem.* と稱する黒き小鳥あり之れ八重山並に沖繩島等には産せざる種なれば臺灣よりさまよひ來りしならん予等着島前捕ひたりしとて一羽の美麗なる「アカオチツタイテウ」(*Phaeton rubricauda*, Bodd.) あり在島者等も甫めて見し者なりと云へり此鳥は本邦にありては小笠原群島に於て獲らるゝことありと聞く之も亦まぐれ來りし者なる可し本島生棲の海禽類に就ては特に后條に於て述ぶる處あれば茲には鳥類一般の之を記するのみ。

本島には哺乳類一も産せず「オホカハホリ」(*Peropus kerandeni*, Peters. var. *lochoensis*, Gray) は魚釣島に棲息する由なれども本島には未だ見たることなし唯獨り家猫の野生の狀に變せし者多きを見る去明治廿八年頃漁船此島に來りしことあり船中に雌雄の猫を飼置きけるが船の

着島するや猫は直ちに島上に逃れ去りて歸り來らず止むなく其まゝに放置せりと云ふ雌雄二頭の猫今や繁殖し体軀は狹長に性は猛惡となり晝は岩窟樹林の中にかくれ夜間出て、島上に宿れる禽類を襲ふ予は島上各處に鳥の屍体の頭部のみ傷きて横はるを多く目撃せり蓋し之れ猫の所業にして猫は鳥の体中尤緊要なる腦を好む者と見ゆ元來島地に他より動物を輸入するは極めて危険のことにして其結果實に恐る可き者あり現に猫を輸入して意外の影況を來したる例は「ノヅアスコシア」の沖にある「セーブル島」(アルダブラ島) (西凡二十英里に在り) 及び「チャザム島」(モロイラ島の東岸) 等にあり「セーブル島」にては千八百八十年に猫を輸入せしが速に繁殖し爲めに從來棲息せる兎は全く其跡を絶てり又「アルダブラ」(「チャザム」の二島にては猫輸入後五六十年にして島固有の鳥類は已に亡滅に歸せりと云ふ故に本島の猫は鳥類の繁殖上に大害を來すや必せり今假りに雌雄の猫が毎年二回平均四匹の子を産む者とし其繁殖数を計算するに實に次の如し(但し猫は生後一年の後生殖する者とし且つ便)

年	親猫	子猫	計
第一年目(二十八年)	二	〇	二
第二年目(二十九年)	六	四	一〇
第三年目(三十年)	二二	二〇	四二
第四年目(三十一年)	八六	八四	一七〇